

令和6年度 朝来市立大蔵小学校 学校評価

学校教育目標

夢や志をもって、自立して
未来を担う大蔵っ子の育成

総合的な学校関係者評価

- ・児童アンケート、保護者アンケートとも、高い、良い評価を得ており、日々の学校運営が適切に行われていると判断できる。そのことから達成状況や自己評価については妥当であると考えられる。
- ・各項目とも課題に対する明確な対応が示されており、今後の改善に向けて具体的に進めてほしい。

自己評価 達成状況（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

	評価の観点		達成 状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	○学校だよりの校区内全戸配布を行った。 ○学校だよりに発行時に記載できない情報をホームページに週1回程度掲載した。 ●保護者への情報提供についてペーパレス化及び確実な情報提供として、メール等をさらに活用する。	・令和6年度より学校だよりに、学校ホームページへの2次元コードが表示され、スマホで活動の様子がスピーディーに見ることができるようになり、とても良かった。
		学校運営協議会活動の充実	A	○体験活動等を積極的に推進していただいた。 ○親子奉仕活動に民生委員様に加わっていただくなど効果的な活動ができた。 ●部会構成を検討する時期ではないか。	・体験学習支援事業について、自治協の生活環境部会として令和7年度に向けて、見直しを行う。
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A	○担任を中心に日々細やかに対応できている。 ○給食指導など全校統一で取り組むことができるよう、他学年の様子を見る研修を行った。	・児童アンケートから先生が「きまりを守ること」「命の大切さやルールについて」よく教えていることがわかる。また「友だちと助け合ったり、はげまし合ったりできている。」ことがわかる。子どもたちの優しさや先生方の指導がよくわかる。 ・全体として児童、保護者アンケートとも高い良い評価を得ていることがわかる。その中で、数名の児童や保護者が低い評価であることが気になる。個別への対応をしていることと思うが引き続き注視し、個々の悩みや不満などないか探って解消していく必要がある。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	A	○職員間で児童についての共通理解ができた。 ○児童支援教員が中心となり、トラブル等についても未然防止や早期発見、早期対応ができています。 ●ケース会議後、情報共有の有効な方法を検討し、さらなる児童への支援につなげたい。	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A	○担任、担当教員、生活指導委員会等がそれぞれ連携し、適切に対応できた。その後の全教職員への情報共有も必ず行われ、教職員の共通理解が図られた。 ●対応するためにより良い時間を、状況に応じて考えていきたい。	
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B	●様々な状況を常に考え、随時マニュアルの点検や見直しを行っていく必要がある。	・最初にマニュアル作りはできても、その後の見直し作業は後回しになる傾向である。全国や他校での事件・事故の例を参考に見直しをしてはどうか。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B	○防犯研修を行うことができた。今後は防犯訓練も実施していきたい。 ●避難訓練を確実に実施しているが、今後、より実践的な内容を加味する必要がある。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	B	○校内支援委員会を必要に応じて開催できた。 ●さらに定期的に開催したい。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	熱中症対策、インフルエンザ等の対策	A	○熱中症対策、感染症対策は確実に実施できている。 ●給食時のアレルギー対応については、今後も最優先に確実に実施していく必要がある。	
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A	○自治協や地域の方にお世話になり、たくさんの体験活動が実施できている。 ●時期によっては、体験活動が重なることがあり、学習時間の確保との兼ね合いから、実施時期の見直しや実施学年の見直し、精選が必要である。	・体験学習において、秋になっても高温が続いたのと5年生が取り組んでいる稲作体験の協力者が次年度は難しいとの話があり、計画の見直しが必要である。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	B	○校内研修や授業研究を今後も実施し、学びを深めたい。 ●日々の授業においても「めあて」や「流れ」の掲示など授業づくりのUD化を実践する必要がある。	・児童アンケートで本を読まない子が増えている。読み聞かせのメンバーと先生方の思いも聞き、共有したい。 ・「めあて」「流れ」の掲示は10年にはじめの一步として進められた取組だ。これが課題として挙げられている状況を改善する必要がある。 ・UD化については、主体的・対話的で深い学びの視点でどのように取組を進めているかが次の課題となり、これがステップアップの効果的な実施や教材理解、発問、授業展開、さらには情報活用能力にもつながるのではないだろうか。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	A	○ステップアップなどで、つまづきなどがある児童について指導することができた。 ●ステップアップの効果的な実施方法について検討する必要がある。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	A	○講師招聘研修は、たいへん有意義であった。今後も継続していきたい。 ●教材理解、発問、授業展開など、さらに改善していきたい。	
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B	●情報活用能力をさらに高める職員研修を、計画的に実施したい。	・IT技術の急激な発展や社会においてもその活用が年々広がっている。苦手意識のある方には厳しいと思われるが段階を踏んだ研修を期待する。
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	A	○「じろはったん」を中核に据えた人権教育は、本校の良き伝統であるとともに、特色ある教育の中心的な部分である。 ○じろはったん集会や人権発表など、人権について学ぶ機会が多くあった。今後も継続していきたい。	・じろはったん集会と歌物語は、継続してほしい取組である。 ・核家族化により、人を思いやる気持ちが軽薄化しているように感じる時だからこそ継続していくことが大切である。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	○多くの職員が関わり、自然学校が実施できた。 ○地域の方にもお世話になり、多くの体験活動ができています。	・昔と今の自然学校では、内容が違ってきている。 ・今の時代に昔のとおりにさせることは、子ども達の理解が追いついてこないのではないかと。目的を保護者や子ども達、先生方でしっかりと共有して取り組むべきである。（運動会やその他行事もすべて同じことである。）
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A	○栄養教諭や給食センターと連携した食育が推進できた。	・各家庭でどれだけ食育を意識した食事ができているかわからない。好きなものだけ食べていることも考えられる。そのため、様々な食事が提供される給食での食育は重要である。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	○生活を見つめ直し、目標を持つなど日々の実践はできている。 ●キャリアパスポートのさらなる活用が必要である。	・キャリアパスポートのさらなる活用とは、具体的にどのような活用か考える必要があるのではないかと。 ・小学生のころから「働くこと」について伝えていく必要がある。世の中、様々な仕事や働く人がいることで成り立っている。地域の大人が誇りを持って働いていることを伝える必要がある。
その他	・地域とともにある学校づくり（学校運営協議会・150周年記念事業等） ・ウェルビーイングの向上と循環（児童・教職員・学校・家庭・地域社会）		A	○多くの地域の皆様のご理解のもと、大蔵地域が一体となって150周年記念事業を実施することができた。	・地域と一体となったとても良い取組となった。日頃からの関係性が良い方向へ働いている。 ・今後、市の教育の方向性としての「地域総ぐるみ」を目指すため、運動会には、保護者以外の地域の方もぜひ参加してほしい。熱中症のこと等あり、地区種目の種目数は現在ぐらいで良いが、選手選考や地区割りについては、区長会等でも検討する必要がある。